

全体計画、計画提案コンセプト

- ・「Ⅰ-1 募集の主旨」、「Ⅱ. 計画提案に求める条件」等を踏まえ、本物件の活用方針（施設利用の方針）や提案事業コンセプトの実現につなげるための考え方を記載してください。
- ・文章だけでなくイラスト、イメージ図等を用いて説明してください。
- ・周辺環境への配慮（周辺交通環境への配慮、改修計画の形態・意匠について、良好な景観形成への配慮）についても記載してください。
- ・本審査では、法令関係等のチェックを行うものではありませんが、提案内容は必ず関係法令等を遵守し、実施できる計画としてください。



事業コンセプト

私たちは学校跡地施設を「いくのコーライブズパーク」
（略称：いくのパーク）と名付けます。
この施設名には、私たちが判断し行動していくうえでの
コア・バリュー（核となる価値観）が込められています。

コー（CO） 「ともに」 生きていくこと。

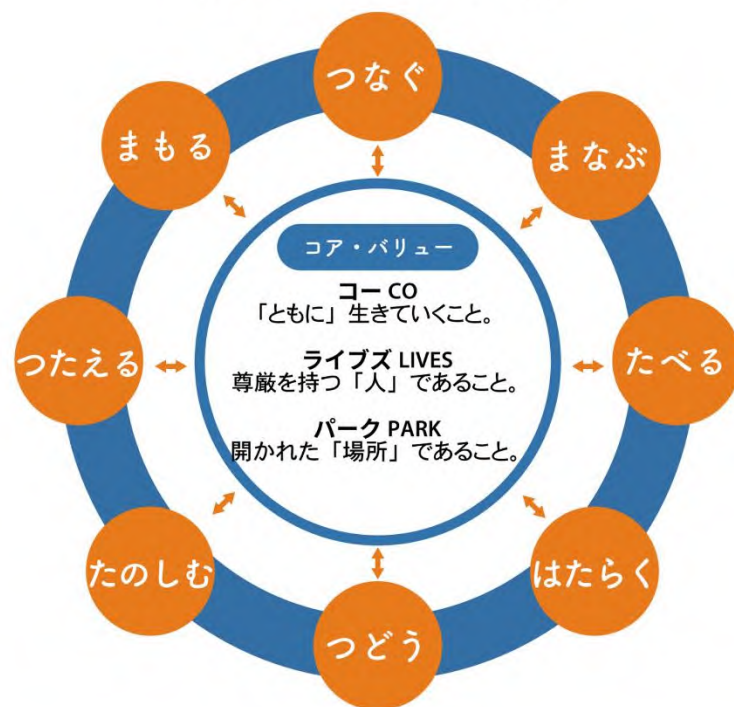
ライブズ（LIVES） 尊厳を持つ「人」であること。

パーク（PARK） 開かれた「場所」であること。

〈つなぐ〉〈まなぶ〉〈たべる〉〈はたらく〉〈つどろ〉〈たのしむ〉〈つたえる〉〈まもる〉
という8つの包括的な機能をもつ、この地域拠点をベースに
9つの事業にチャレンジしていきます。

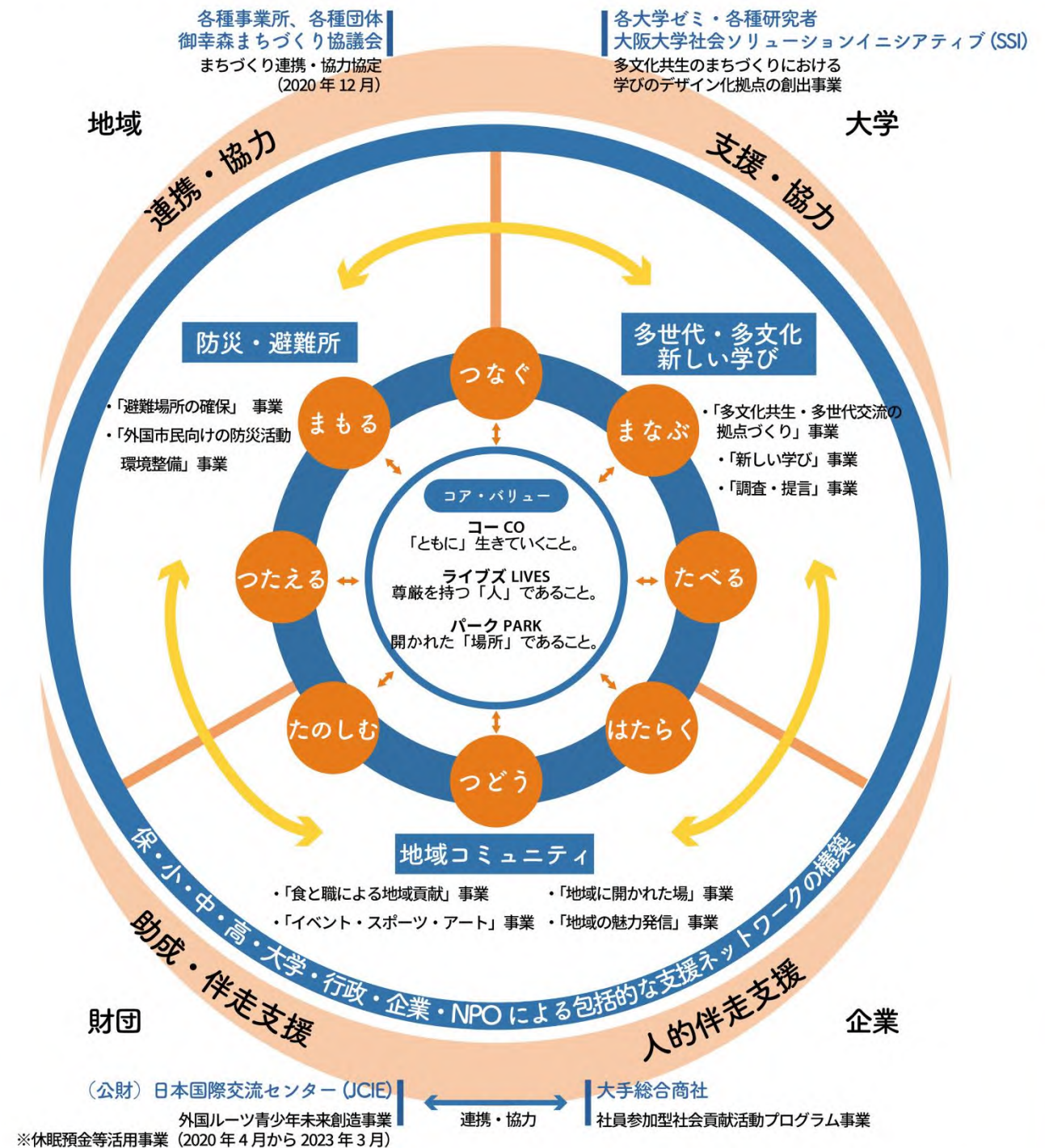
多様性はイノベーションの源泉です。
私たちは生野区の独自性・魅力である「多国籍・多文化」の地域特長を最大限に活かし、
さまざまな職種・セクターの人や組織の創発的な取り組みを通じて、
日本人も外国人も誰もが暮らしやすい、
全国でNo.1のグローバルタウンをめざします。

【コア・バリューと8つの機能】



事業全体図

全体ビジョンを実現していくうえでの私たちの最大の特長は、生野区の内外に幅広いネットワークを形成していることにあります。多文化共生のまちづくり拠点の構築に関わる直接・間接的なステークホルダーは、現在だけでもNPO、大学・学校、企業、公的機関など71団体以上に上ります。さまざまな領域や分野を横断する情報交換やアイデアの交流を通じて創発的な取り組みが生み出され、創造的な多文化共生のまちづくりにつながります。



事業効果

1

生野区役所および地域と連携・協力して、自然災害や経済ショックなどの被害にあうことなるべく減らし、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりを進めます。

2

当該施設の利活用者が年間20万人を越えるようにします。特に女性や子ども、高齢者や障がいのある人などを含めて誰もが安心して学び、楽しめる「居場所」となるようにします。

3

働きがいのある人間らしい仕事についたり、新しく事業を立ち上げたりできるようにサポートするとともに、特に食の仕事に関係する技術や能力をそなえた若者や大人をたくさん増やします。

4

包括的な支援ネットワークを構築することで、地域に根差した多文化共生教育のロールモデルをつくります。外国ルーツの子どもたちの高校中退率を減らし、すべての子どもたちが大学を含めた高等教育を受けられるように支援します。

事業概要図

○新規事業 ■既存事業

いくのコーライブスパーク

防災・避難所機能

1.「避難場所の確保」事業

- 「施設災害対応マニュアル」の作成
- 地域と連携した防災活動・防災訓練の実施
- 施設の管理者・スタッフを対象にした防災研修の定期開催
- 芝生／施設を活用したキッズ防災キャンプの開催
- 施設内の食堂等を活用した災害時の「炊出し」機能の発揮



2.「外国人市民向けの防災活動環境整備」事業

- 外国人向けの防災パンフレットの作成・配布
- 地域と連携した共同防災活動・訓練の実施
- 災害時における外国人市民向け相談窓口の開設
- ローカルメディアを通じた多言語情報の提供
- (公財)とよなか国際交流協会との連携・協力関係の構築



地域コミュニティ機能

3.「食と職による地域貢献」事業

- サブスクリプション制食堂（御幸森食堂）の運営
- シェアキッチン／キッチンカーのレンタル
- 「飲食人大学」の運営
- 【実績】転職・開業の成功実績：5000件

- ゴーストキッチンの運営
- 障がい者が働くカフェ＆レストランの運営
- 【実績】府内4か所で運営



- 地元の中小旅行会社による旅行商品の創出

4.「地域に開かれた場」事業

- 運動場の芝生化とバーベキュー広場の運営
- 市民農園の運営
- 地域住民団体との協働とNPOの集積



5.「イベント・スポーツ・アート」事業

- 多文化クロッシングフェス／ワールドフードフェスの実施
- ストリートスポーツ体験
- UNKNOWN ASIA：アート展示ギャラリーの実施



6.「地域の魅力発信」事業

- 地域メディアを通じた内外への情報発信

「学び」の視点を持った活用、多文化・多世代の共生

7.「多文化共生・多世代交流の拠点づくり」事業

- IKUNO・多文化共生センターの設立・運営
- 保育園による「一時預かり事業」／「親子つどい広場」の実施
- 【一時預かり事業の実績】
- 2017年度：4,749名／2018年度：3,915名／2019年度：3,466名
- 2020年度：2,489名
- 【親子つどい広場の実績】 2020年度：2,568名



- 多世代交流などの「機会と場」の創出
- 鶴橋～生野コリアタウンでのフィールドワーク（FW）による研修・体験活動の場の提供
- 【実績】2010年度から2019年度（10年間）：参加者数 92,246名／学校・団体数：1,663

8.「新しい学び」事業

- 「コラーニング」スペースの運営
- 学習サポート教室の共同運営
- 【実績】2020年度：週当たり43名（8か国）／延べ参加者数：1,421名
- 「いくのふらっとだいがく」の運営
- 地域に根ざした府立大阪わかば高校の「多文化共生の学校づくり」との連携



9.「調査・提言」事業

- 調査/提言活動の実施
- 【実績】論文「大阪市生野区における『多文化共生のまちづくり』に関わる検討—インタビュー調査を通して—」（2021）
- 『コミュニティ政策学会』19（査読済、刊行予定）

